

〈研究成果の紹介〉

ブドウ新品種「シャインマスカット」の花穂整形時期と結実

農業研究部伊賀農業研究室

1. 成果の内容

伊賀地域では、栽培が難しいとされてきた「巨峰」を1970年代から積極的に導入しハウス栽培による盆前出荷で有利販売を展開してきました。さらに1990年代後半には、鮮やかな赤色で食味の優れる高級ブドウ「安芸クイーン（ブランド名：伊賀乙女）」を全国に先駆けて導入し、特産化を図っています。これら高品質な黒、赤系ブドウの特徴を活かして、魅力あるブドウの生産・販売を展開するために、高品質な白系ブドウが待望されていました。新品種「シャインマスカット」（写真）は、その期待に応えるべく良好な香りを有し、食味は極めて優れた白系ブドウであり、生産者の間でも関心が高まり、伊賀地域でも産地化に向けた品種の特性解明と栽培技術の確立が求められています。

ところで、ブドウでは有核（たねあり）栽培を行う場合、花穂整形による結実の確保が、高品質果安定生産の成否に直結する課題となります。こうしたことから、「シャインマスカット」の花穂整形時期の違いが、結実や果実品質へ及ぼす影響について明らかにし、花穂整形作業の適期を明らかにしました。花穂整形を有核栽培の「巨峰」の方法（図1）に



シャインマスカット

品質果安定生産の成否に直結する課題となります。こうしたことから、「シャインマスカット」の花穂整形時期の違いが、結実や果実品質へ及ぼす影響について明らかにし、花穂整形作業の適期を明らかにしました。花穂整形を有核栽培の「巨峰」の方法（図1）に

準じて開花13日前から満開時に行なったところ、いずれの時期でも房作りに必要な有核果が十分確保できることがわかりました（図2）。花穂整形時期の違いが無核果の着生に及ぼす影響は小さく、結実が確保された後は1果房あたり40粒を目標として摘粒作業を行うと、収穫時の無核果の混入を防ぐことは十分可能で、花穂整形時期の違いによる果粒重、糖度（Brix）、酸含量の差は小さく、収穫果房の長さや着粒密度の違いは見られませんでした（表1に一部データ掲載）。

2. 技術の適用効果と適用範囲

三重県内のブドウ栽培地域で適用が可能と思われます。本試験は雨よけ栽培条件で実施しましたが、露地栽培でも結実は良好です。ただし、「シャインマスカット」は黒とう病、べと病、晩腐病にやや弱いため、雨よけ栽培を行い、「巨峰」並の防除を行うことをお勧めします。

3. 普及・利用上の問題点

本研究では「巨峰」に準じて花穂整形を行いました。しかし、「シャインマスカット」の結実は非常に安定しているため、房作りのため、摘粒はていねいに行う必要があります。今後は、省力的な房作り技術について検討する予定です。なお、「シャインマスカット」は現在ウイルスフリーの苗木を供給する準備を行っており、苗木が販売されるまでにはしばらく時間を要する見込みです。（西川 豊）

表1 収穫時の果実品質

年度	花穂整形時期	果粒重 (g)	糖度 (Brix%)
2004	満開5日前	9.7±0.2 ²	20.2±0.5
	満開時	9.1±1.0	20.8±0.8
2005	満開13日前	10.6±0.0	19.7±0.6
	満開8日前	10.3±0.2	19.8±0.2
	満開時	10.3±0.2	20.3±0.3

² 平均値±標準誤差



図1 「シャインマスカット」の花穂整形の模式図

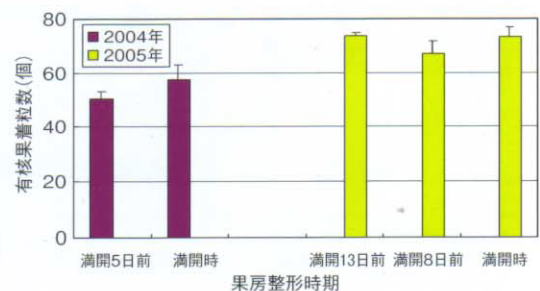


図2 果房整形時期の違いが「シャインマスカット」の有核果着粒数に及ぼす影響